



### 所長コメント

カーブの快進撃はまさに「神ってる！」  
この原稿を書いている6月29日現在 10連勝！2位と9ゲーム差

このまま、優勝へ突っ走ってくれればしいが、昔のカーブを知る者から見ると、必ずリバウンドが来そうな気がする。緒方監督の采配もズバズバ当たる。乗ってるときは会社も人生も同じだ。

6月28日(日曜日)の阪神3連戦の最終戦に行った。8回の表に1点取られたが、9回2アウトから同点に追いつき、代打松山のレフトフライを阪神のレフト、センターの野手が取り合って、落球し勝利が転がり込んできた。

レフトの選手はタンカーで運ばれていった。阪神にとって  
はまさに痛い逆転負けである。

棚からばた餅、まさに「神ってる！」である。

最後の勝利者インタビューで、松山選手が、アナウンサーから「ファンに一言」と言われて、普通ならおたけびを上げるのだろうが、

「今日は勘弁してください。阪神の選手がけがをしますから」と言ったのが印象的だった。

7月11日のタクティクス発行まで 鮮度が保たれればしいが……

## 社長の仕事 税理士 大場史郎

孫正義ほどの経営者でも、引き際はぶれるものである。桁違いの待遇で将来の後継者として迎えたニケシュ・アローラ副社長が株主総会前夜の6月21日に突如退任すると発表した。

孫社長は60歳の誕生日(2017年8月11日)にアローラ氏に社長の座を禅譲するつもりでいた。

ところが「1.8兆円を投じて傘下に収めた米携帯業界3位の)スプリントを真によみがえらせ、その他いくつかのクレイジーな構想を実現するにはあと5~10年は社長として率いて行く必要がある。ニケシュを待たせてはいけない。そこでニケシュと話合った。」と言って、前言を翻した。

私もソフトバンクの株をほんの少し持っているので、株主総会の議案書が届いたが、そこにはニケシュ・アローラ副社長の継続が記載されていたのだが、突然の豹変である。

一体二人の間には何があったのだろうか。ニケシュ・アローラがアリババ(中国のグーグルのような企業)の株の一部売却などを矢継ぎ早に行って、2兆円のキャッシ

ュを生み出した。

株は持ち続けるものとする企業家としての孫流のやり方と、株価が高い時に売って、新たに伸びる分野に再投資するという投資家としてのアローラのやり方の違いがあった。でも二人の間に60歳で社長を禅譲するという約束があったのは事実のようだ。

社長を続けてきた人が、子供や社員又はヘッドハンティングした第三者に社長を譲るということはなかなかできないものではない。まして自分で創業し、育てた会社ならなおさらだ。

創業社長は仕事が趣味。仮に仕事を取ってしまえば、生きる意欲まで無くなるというタイプが多い。また、息子に譲りたくてもとても経営者の器ではないというケースもある。

しかし30年も社長を続けると、いつの間にか裸の王様になっていることも多い。

でも、いつかは難しい選択をするその時は間違いなく来るのです。